

広報委員会委員に就任して

サンコーコンサルタント（株）
彦坂 茂



はじめに

昨年7月に大沼孝明の後任として、東北地質調査業協会の広報委員に就任致しましたサンコーコンサルタント株式会社の彦坂です。

東北地方では一日も早い震災復興の実現、多発する自然災害への対応など、今後も地質調査業の果たす役割は重要なものと認識しております。協会皆様とともに、協会の発展、地域の様々な課題への取り組みに貢献して参りますので、よろしく申し上げます。

仕事以外のこと

私は、昭和39年、東京オリンピック開催の年に札幌で生れ、以来24年間、北海道内で暮らしておりました。

北海道ではウィンタースポーツとして、スキーとスケートが有名ですが、札幌・富良野などの積雪が多い地域ではスキーが、逆に苫小牧・釧路など積雪が少ない地域ではスケートが主流です。そんな土地柄のため、私は小学校入学から大学卒業まで、雪のシーズンになると、学校でスキー授業がありました。近隣の公園や簡易なスキー場で練習（基本の反復ではっきり言ってあまり面白くはない）を行い、年1回行われるスキー遠足では広いゲレンデでスキーを満喫（先生に滑り方をとやかく言われずに自由に楽しむ）して、冬場の運動不足を解消してきました。

ちなみに、一時期流行したスノーボードは社会人になってから挑戦しましたが、まったく乗りこなせません。両足が

固定されていて、ボード操作が難しい上に、自由を奪われているような感覚に囚われてどうにも馴染めません。（私だけでしょか・・・）

私にとって、スポーツ経験と呼べる唯一のものがスキーであります。スキーシーズンは年度末の業務多忙期と重なりますが、今後も時々は東の間の休息程度に付き合っていきたいものです。

仕事のこと

私は昭和63年4月、サンコーコンサルタント株式会社へ入社、東京本社の地質調査部門に配属されました。

会社は、理学部出身の「地質屋さん」による探鉱、ダム、トンネル、温泉掘削等の業務が主流であります。入社当時は、都市部での構造物設計（道路・堤防・宅地等の盛土、擁壁、橋梁等々）に係わる地質調査の業務拡大を図っていました。また、私が土木工学科出身ということもあって、入社以来、主に軟弱地盤の調査・解析を行っています。

入社当初は主に、試験要員として試験室に通って、土質試験を行っていました。当時は、東京湾アクアラインの地質調査が行われていた時期で、軟弱土のサンプリング試料を用いて動的変形試験（中空ねじり試験）や振動三軸試験（液状化試験）の実務を数多く行いました。その合間には、物理試験の手伝いをしながら土に直接触れることができ、時々静的な試験に接することで土の性質を知る機会を得ることができ、後々の実務に役立つ貴重な経験をすることができました。

.....

それから、造成後宅地の管理（宅盤の支持力確認、擁壁背面の転圧状況確認など）を目的としたスウェーデン式サウンディングも数多く経験した業務の一つです。当時はまだ、半自動や全自動等の機械が普及していなかったため、全て人力で試験を行っていました。この試験は錘を載せてロッドを貫入するときよりも、試験後にロッドを引き抜くことに多くの労力を要するやっかいな代物で、粘性の高い地層で掘り止めになると、気分の減入ることがしばしばあったことを思い出します。

また、バブル時代には、大手の不動産が手がけるゴルフ場新設の地質調査・対策工検討に携わる機会も多くありました。当時は、ゴルフ会員権までもが投機の対象とされ、ゴルフ場開発が盛んに行われていました。私が関わった多くは千葉・茨城方面で、現地踏査で未開の原野に踏み込んでいくと、マムシ、ムカデ、スズメバチなど身の危険を感じる類の生物に遭遇することが多くあり、爬虫類や足の多い虫が苦手な私にとって、人生で最も憂鬱な時期であったことが思い出されます。

ここ最近では、震災復興に関する業務に係わることが多く、平成24年度から、東北被災地の海岸護岸や河川堤防を整備するためのボーリング調査およびFEM解析（液状化に伴う盛土の残留変位解析）に携わっています。それらの復興に関する業務は、測量・調査・設計を一括発注されることが大半のため、設計協議に同席することもしばしばあります。利害関

係が複雑で広範にわたり、地元関係者との合意が得られないケースが多々ある状況に触れると、復興事業の難しさを肌で感じます。地質調査に携わるものとして、設計・施工における課題解決に対し、迅速に対応していくことで、少しでも復旧の早期実現に貢献できればとの思いを強くしております。

おわりに

活躍の状況を自由に書いて下さいとのことで、過去を振り返り、思いつくまま筆を進めたため、とりとめのない文章になってしまいました。ここまで、読み進めて頂いた方々には、ただただ感謝する次第です。東北各地まで配信される「大地」という立派な紙面を、拙い文章で汚していないか心配は尽きませんが、協会および東北地域の発展に貢献できるように努力致しますので、改めて宜しく願います。